

朝鮮語の副詞 < 잘 jal > の分布と意味機能 —多義性の観点から—

丹羽 裕美

한국어 부사 <잘 jal>의 분포와 의미기능

NIWA Hiromi

要 旨

한국어 부사 <잘>은 현대 한국어 어휘들 중에서도 비교적 높은 사용빈도를 보이고
선행연구에 따르면 학습자가 오용(誤用) 하기 쉬운 단어라고도 한다.

본 연구는 <잘jal>의 공기관계와 통사적 특징을 중심으로 하여 그 다의성을 밝히는 것을
목적으로 한다. 따라서 본고에서는 실제 모어화자가 사용한 언어자료를 바탕으로 <잘>의 공
기어와 다의의 상관성을 기술하고 그 의미영역의 분포와 중심적인 개념을 검토하고자 한다.
나아가 <잘>과 <よく>를 대조한 결과 통사적인 차이도 다의성에 관련되어 있음을 밝힌다.



目次

1. はじめに
2. 研究対象および研究方法
3. 先行研究
4. 共起関係からみえる <잘> の多義性
 - 4.1 <잘> の意味分析の基準
 - 4.2 出現頻度の多い共起語からみた意味機能
 - 4.2.1 알다 (知る、分かる) と共起した <잘>
 - 4.2.2 모르다 (知らない、分からない) と共起した <잘>
 - 4.2.3 알려지다 (知られる) と共起した <잘>
 - 4.2.4 어울리다 (似合う) と共起した <잘>

- 4.2.5 드러나다 (現れる) と共起した <잘>
- 4.2.6 나타나다 (現れる) と共起した <잘>
- 4.2.7 보다 (見る) と共起した <잘>
- 4.2.8 쓰다 (書く) と共起した <잘>
- 4.2.9 먹다 (食べる) と共起した <잘>
- 4.3 共起語の分類と意味機能
 - 4.3.1 共起語の分類
 - 4.3.2 <잘> の意味機能
- 4.4 <잘> の意味領域の分布と中心的な概念
5. <잘> の統辞的な特徴—修飾範囲を中心に
6. おわりに

はじめに

<잘> は現代朝鮮語の使用語彙の中でも、比較的高い使用頻度をみせる副詞である¹と同時に、先行研究によると <잘> と <よく> の対応において学習者の誤用が集中する傾向がみられる²。

辞書の記述をみると <잘> は概ね日本語の <よく> と対応しており、複数の意味があげられている多義語であるが、各々の意味機能が固定的に記述されているだけで、その多義の意味機能の関連性がみえてこない。これは先行研究でも同じである。

本稿では辞書や先行研究の記述に加え、計量的な分析を行うことで見えてくる、<잘> の多義性の分布や意味機能の関連性を記述する必要があると考える。<잘> の多義性を検討することに先立ち、多義性についての本稿の考え方に触れておく。

亀井孝、河野六郎、千野栄一『言語学大辞典』(1996:55) は意味の多義性について、以下のように記述している。

「多くの語は、一語で多くの意義をもつ。これを、語の多義性 (polysemy) という。

(中略) 語が多義になるのは、自然の勢いである。(中略) 語は意義を固定的にもつのではなく、

語は意味作用としてある概念を指向するのであるから、その方向付けが揺れるのもまたやむをえない。」

また認知言語学での多義性は、中心的な概念から意味拡張された派生的意味が、周辺的な意味であるという共通的な認識に基づいている。しかし、この中心的な概念は研究者の立場により意見が一致しない³。

そこで本稿では、ある語を用いる際に優先的に扱われる意味が中心的な概念と認める Gries (2006)⁴ の「機能的中心性」に注目した。この「機能的中心性」から得られる情報は、コミュニケーション上で母語話者が多数の意味の中から、好んで使用する意味が何かを、客観的に明示することができるだけでなく、多義性の中に潜む共通した意味機能を考察する上で有用であると考え、本稿 4.4 で検討する中心的な概念の根拠とする。

したがって本稿では、亀井他 (1996) の多義性の定義と Gries (2006) の概念である「機能的中心性」を受け入れ、多義とは、互いに関連性を持ちながら意味領域を成しており、そこには中心的概念が存在すると仮定した。実際に母語話者が使用した言語資料を考察すると、<잘> の被修飾語である共起語ごとに、その意味に偏りがみられた。

本稿では、共起関係と統辞的特徴が< 잘 >の多義性に関連性があるという観点から、計量的な用例分析を根拠に、多義性の体系を記述することを目的とする。

2. 研究対象および研究方法

本稿では、実際に母語話者が使用した言語資料を分析する。研究対象の資料は、21世紀世宗計画で提供された 연구교육용 현대 국어 균형말뭉치 データを用い、書き言葉を分析の対象とし、ジャンルごと均衡に合計1,000用例になるよう用例を抽出し作成したものである。

この言語資料を用い計量的に分析を行う上で、どこまでを< 잘 >の範疇とするか以下①②に記す。

- ①辞書の見出し語を基準とする。ただし見出し語になっている 잘하다, 잘되다, 잘나다, 잘나가다, 잘살다, 잘생기다 を除外し< 잘 >と異なる別の単語として扱うことにする。
- ②잘도, 잘은 のような強調の語も< 잘 >として扱う。

次に被修飾語である共起語の範疇はどのように設定するか。その基準と方針を以下③～⑥に述べる。

- ③알아듣다 (1.理解する、2.聞き取る)のように1つの見出し語に肩番号が複数ついている意味的多義語の場合も各々個別に扱う。
- ④납득이 가다 のように見出し語に提示されていないものの 납득이 がなくなると「納得する」の意味が失われるもの、더러움이 타다 のように 타다 が多義語のために 더러움이 がないと意味が把握しにくいものはコロケーションとして1語で扱う。
- ⑤들어가다のように二つの用言が結合し1つの単語として辞書で扱われているものは、本稿においても1つの単語として扱う。ただし、보여주다 のように辞書の見出し語にない場合は本用言의 보이다 として扱う。
- ⑥-어지다, -어하다 及び -되다, -드리다, -받다, -시키다, -대다, -당하다 がついた単語は1つの単語として扱う。

上記の資料を用いて、次の順に考察と分析を行う。

まず、< 잘 >の多義性について先行研究を考察し、その問題点より本研究の立場を示す。(3章)、次に、< 잘 >の被修飾語である共起語と多義の相関性を記述し、その意味領域の分布と中心的な概念を検討する(4章)。さらに、修飾範囲を中心に統辞的な側面から分析し< 잘 >を体系的に明示する(5章)。

3. 先行研究

多くの先行研究では、副詞全体の類型を示す中に< 잘 >が扱われており、< 잘 >そのものに焦点をあてた研究は多くない。本稿では多義性に関する研究の中で< 잘 >を扱っているものに注目し、李在鎬・井佐原均(2003)、박소영(2004)、서정수(2005)、김태인(2014)をあげる。

李在鎬・井佐原均(2003)は、< 잘 >の用例を文構造に基づいてクラスタ分析し、主成分の分析結果と< 잘 >の意味解釈を対応させ< 잘 >が「①様態、②程度、③頻度、④態度」の意味を持つとし⁵、従来の相互排他性に基づく分類(< 잘 >は様態副詞であるから程度や態度の副詞になり得ないとする分類法)では説明できないと主張した。

さらに、< 잘 >が動作述語への修飾要素として頻繁に共起することを根拠に、様態副詞として定義づけたとしても、< 잘 >が程度副詞や態度副詞でないことの直接的な証拠にはならないと述べ、< 잘 >の意味と形式のあいだに見られる多様な対応関係を指摘した。しかし「構文は表現パターンと認知事態のシンボリックな対応物である」と位置付け、基本的に構文に多義性を認めるべきではないという点は、本稿とは異なる立場である。

박소영(2004)は、事象構造に基づいて新たな副詞の下位分類を設けた⁶。従来、成分副詞を程度副詞と様態副詞の二つに分けていた分類を改め、受身動詞、達成動詞と共起関係にある< 잘 >を様態副詞とは別の範疇である容易性副詞として分類している。例は以下の通りである。

達成動詞と共起した <잘>

- a. 철수가 책을 <잘> 읽는다.
- b. 영화가 그림을 <잘> 그린다.

受身動詞と共起した <잘>

- a. 이 책은 <잘> 읽힌다.
- b. 이것은 <잘> 잘린다.
- c. 이 의자는 <잘> 접힌다.

서정수 (2005) は共起関係に基づく分類によって、共起の制限や、意味の多義性の部分に接近した。서정수 (2005:131) の用例を一部引用する。

내가 영어를 잘 배웠다.

- a. 내가 영어를 마침 잘 배웠다.
- b. 내가 영어를 더 잘 배웠다.

普通、動態副詞類は動作の方式や姿の表示をするものであるが、a.「幸いに」という意味で解釈できるものだけでなく、b.「優れて」と解釈することも可能なものもあるため、<잘> の意味は曖昧であると指摘し、<잘> が「制約副詞」の一般動態副詞類語のなかでも、やや特異な存在として扱っている⁷⁾。

김태인 (2014) は、文や発話の階層構造を話行 (Speech-Act) > 事実 (Fact) > 命題 (Proposition) > 全体事象 (Event) > 下位事象 (Subevent) のように設定し、階層別に見られる事象構造から <잘> の多義性を分析し、方式副詞 (manner adverb)、評価副詞 (evaluative adverb)、頻度副詞 (frequency adverb) の三つに分類した。

方式副詞の <잘> は、意味論的階層構造で「過程」と「結果」という下位事象をその作用域とする。事象の展開過程に作用する場合に、動作事象の語彙と共起し、過去時制で現れる事象と共起する場合「結果」として機能する。また、方式副詞の <잘> は慣用表現を多く見出すことができる点を指摘している。評価副詞は、文章の意味論的階層構造から、事実範疇を作用域と見做している。そのため、評価副詞の <잘> が

使われる文章は、評価の対象となる事実範疇と評価が成される部分へと両分化し得る⁸⁾。このように両分化される性格のために、あるいは、評価の対象が事実範疇であるために、評価副詞 <잘> は命令文で使われることはできず、純粋な疑問文でも使われることはない。頻度副詞の <잘> は、全体事象に作用する副詞である。そのため事象のアスペクト的特徴を考慮すると反復相や習慣相と共起しやすく、状態の叙述語と結合することができる。頻度副詞は事象の頻繁さを表す特徴を持つため、頻度副詞の <잘> は習慣文を形成するという。よって頻度副詞の <잘> を頻繁相や習慣相を確保してくれる一種の相副詞と見ても構わないのではないかと示唆している。

上述した研究は、多義を各々の方法で分類し、その特性を追求したものである。しかし、多様な意味機能の特性を一般化することに留まり、多義であるがゆえに生じる相互の関連性がみられない。本研究はこのような先行研究の問題点に注目する。これについては次章で述べる。

4. 共起関係からみえる <잘> の多義性

<잘> の共起語と多義の関連性を記述し、その意味領域の分布と中心的な概念を検討するため、4.1 で意味分析の基準を立て、4.2 では共起する頻度が多い語を挙げ、その語と結合した <잘> の意味機能を個別に考察する。4.3 では共起語と意味機能の相関関係を述べ、4.4 で <잘> の意味領域の分布を明示し、その中心的な概念を検討する。

4.1 <잘> の意味分析の基準

意味を把握する一般的な資料である辞書での <잘> の意味記述を見るために、『표준국어대사전 (標準国語大辞典)』『연세 현대 한국어사전 (延世現代韓国語辞典)』『韓日辞典』を検討した。その結果 [表 1] の通りである⁹⁾。

上記「標準」「延世」「韓日」の意味記述をみると、
辞書ごとに異なることがわかる。

よって、3つの辞書を集合させることを出発点とし、これらを1次的に意味機能の候補として検討する。

下記①～⑱は、各辞書の例文から考察した結果である。その過程では、以下のように特徴を捉えた。代表

的な例文と共に記述する。

①自動詞文と他動詞文の両構文がみられ、키우다「育てる」との共起関係が複数回みられた。意味の解釈は 훌륭하게「素晴らしく、立派に」と置き換え可能である。

[表1] 辞書の意味記述の集合

	標 準	延 世	韓 日
①	좋고 훌륭하게.		立派に、見事に、上手に、巧みに
②	익숙하고 능란하게.	능력 있게. 솜씨 있게. 익숙하게.	《를[을] 잘 の形で》うまく、上手に
③	자세하고 정확하게. 또는 분명하고 또렷이.	충분히 명확하게.	詳しく、十分に、確かに、はっきり
④		정확하게.	
⑤		주의해서.	
⑥	아무 탈 없이 편하고 순조롭게.	[주로 인사말에 써서] 아무 탈 없이 무사히. 건강하게.	無事に、元気よく、思う存分
⑦	유감없이 충분하게.	충분히 만족스럽게.	十分に、満足に
⑧	아주 만족스럽게.		
⑨	버릇으로 자주.	흔히. 자주.	しばしば、たびたび
⑩	아주 적절하게. 또는 아주 알맞게.	[주로 '마침 ~' 의 끝로 써서] 적절한 때에. 알맞게.	都合よく、折よく
		적절하게. 알맞게.	
⑪	옳고 바르게.	옳고 바르게.	正しく
⑫	아주 멋지게. 또는 아름답고 예쁘게.	좋고 멋있게.	美しく、きれいに
⑬	예사롭거나 쉽게.	쉽사리. 길뻑하면. 툭하면.	
⑭	기능 면에서 아주 만족스럽게.	(기능 등이) 만족스럽게 잘 발휘되어.	
⑮	친절하게 성의껏.	[주로 '잘 하다/ 해 주다' 의 끝로 써서] 친절히. 열심히. 성의껏.	
⑯	(흔히 수량을 나타내는 말 뒤에 쓰여) 충분하고 넉넉하게.	[양이나 길이를 나타내는 말과 같이 써서] 넉넉히. 실히.	
⑰		즐거워.	
⑱		부유하고 행복하게.	
⑲			よろしく

例: 병주는 아들 딸을 모두 잘 키웠다.

ピョンジュは息子や娘を立派に育てた。

- ②他動詞構文で, 치료하다「治療する」다스리다「治める」그리다「描く」부르다「歌う」쓰다「書く」との共起関係がみられ, 능란하게「たくみに」と置き換え可能。

例: 감정을 잘 다스려 내 감정을 내 의지대로 조종하는 주인이 되는 것이다.

感情をよく(うまく)コントロールし自分の感情を自分の意志の通りに操縦する主人になることだ。

- ③他動詞構文で 알다「知る、わかる」모르다「知らない、わからない」との共起関係が複数回みられ, 명확하게「明確に」と置き換え可能。

例: 사람이 자연을 떠나서 살 수 없다는 사실은 누구나 잘 알고 있는 사실입니다.

人が自然から離れて生きられない事実は誰でもよく知っている事実です。

- ④他動詞構文で, 지키다「守る」と共起した用例のみであった。정확하게「正確に」と置き換え可能。

例: 비행사의 첫 번째 신조는 시간을 잘 지키는 것과 안정성을 지켜야 한다는 것이다.

飛行士の第一の信条は時間をよく(きちんと)守る事と安全性を守らなければならない事だ。

- ⑤他動詞構文で 듣다「聞く」보다「見る」と共起し 주의해서「注意して」と置き換え可能。

例: 선생님이 하시는 말씀을 잘 듣고 그것을 이해하려고 노력하는 자세가 중요하다.

先生の話をよく聞いて、それを理解しようと努力する姿勢が重要だ。

- ⑥自動詞文と他動詞文の両構文がみられ, 가다「行く」도착하다「到着する」のほかに, 지내다「過ごす」との共起関係を複数回確認した。무사히「無事に」と置き換え可能。

例: 덕분에 잘 지냅니다.

おかげでよく(元気に)過ごしました。

- ⑦自動詞文と他動詞文の両構文がみられ, 먹다「食

べる」생각하다「考える」자다「寝る」놀다「遊ぶ」と共起しており, 충분하다「十分に」と置き換え可能。

例: 아주 재미있게 잘 놀았습니다.

とても楽しくよく遊びました。

- ⑧自動詞構文で 자다「寝る」놀다「遊ぶ」と共起し, 만족스럽게「満足に」と置き換え可能。

例: 지난 밤에는 잘 자지 못했다.

昨晚はよく眠れなかった。

- ⑨自動詞構文で, 웃다「笑う」울다「泣く」가다「行く」다니다「通う」と共起しており, 자주「頻繁に」と置き換え可能。

例: 이 곳은 우리가 연애할 때 잘 다니던 술집입니다.

ここは私たちが恋愛中によく通った居酒屋です。

- ⑩自動詞文と他動詞文の両構文がみられ, 이용하다「利用する」맞다「合う」익다「熟す」어울리다「似合う」と共起し, 적절하게「適切に」と置き換え可能。

例: 너한테 가보려고 했는데 마침 잘 왔구나.

お前の所に行こうと思っていたがちょうど折よく来たね。

- ⑪他動詞構文がみられ, 알다「知る、わかる」가르치다「教える」と共起関係がみられた。また, <잘> を省くと他の意味になってしまう、いわゆる慣用句的な使い方をした, 마음을 잘 쓰다「心を正しく持つ」の用例が複数回みられた。意味解釈は 바르게「正しく」と置き換え可能。

例: 큰 인물이 되려면 마음을 잘 써야 한다.

立派な人物になるには心を正しく持たなければならない。

- ⑫自動詞文と他動詞文の両構文がみられ, 慣用句的な使い方をした 사진이 잘 나오다「写真写りが良い」や「着飾る」との共起関係がみられ 멋지게 예쁘게「素敵に、美しく」と置き換え可能。

例: 사진이 잘 나왔다.

写真写りが良かった。

- ⑬自動詞構文で, 자다 「寝る」 속다 「騙される」 깨지다 「壊れる、砕ける」 との共起がみられ、 쉽게 「容易く」と置き換え可能。

例: 어릴 때 나는 글씨를 쓰면 잘 찢어지거나 구멍이 뚫려서 한지 공책을 갖는 것이 소원이었다.

子供のころ私は字を書くときよく破けたり穴が開いたので韓紙のノートを持つのが願이었다。

- ⑭약이 잘 듣다 「薬が良く効く」 칼이 잘 들다 「刃物が良く切れる」 のように、 기능 면에서 아주 만족스럽게 「機能面でとても満足に」の意味で用いられる。

例: 칼이 아주 잘 듣다.

ナイフがよく切れる

- ⑮잘 해 주다 「良くしてくれる」 잘 대해 주다 「良くもてなしてくれる」 잘 봐 주다 「大目にみる」 のように、 친절하게 성의껏 「親切に、誠意を尽くして」の意味で用いられる。

例: 다른 사람에게 잘 해 주는 만큼 그 사람도 너에게 그만큼 잘 해 줄 것이다.

他人に良くしてあげるだけ、他人もおまえに同じくらい良くしてくれるだろう。

- ⑯数量を表す語と共に用いて、 넉넉하게 「たっぷり」との意味で用いられる。

例: 아무리 서둘러도 이들은 잘 걸릴 줄 아네.

いくら急いでも2日はたっぷりかかるだろうね。

- ⑰먹다 「食べる」と共起して、 즐겨서 「好んで」の意味で用いられる。

例: 그는 밥보다 국수를 더 잘 먹는다.

彼はご飯より麺をより好んで食べる。

- ⑱살다 「暮らす」と共起して、 행복하게 「幸せに」の意味で用いられる。

例: 나만 잘 살면 된다는 생각은 버려라.

自分だけ幸せに暮らせばよいという考えは捨てろ。

- ⑲앞으로 잘 부탁드립니다. 「今後ともよろしくお願

いいたします。」などで用いられる。

例: 부모님께 안부 잘 전해 주세요.

ご両親によりしくお伝えください。

次に、本稿の資料の< 잘 >の意味を分析するための意味機能の候補と、その判断基準を示すと次のようになる。

①素晴らしく 훌륭하게 と置き換え可能なもの。

②たくみに 능란하게 と置き換え可能なもの。

③明確に 명확하게 と置き換え可能なもの。

④正確に 정확하게 と置き換え可能なもの。

⑤注意して 주의해서 と置き換え可能なもの。

⑥無事に 무사히 と置き換え可能なもの。

⑦十分に 충분히 と置き換え可能なもの。

⑧満足に 만족스럽게 と置き換え可能なもの。

⑨頻繁に 자주 と置き換え可能なもの。

⑩適切に 적절하게 と置き換え可能なもの。

⑪正しく 바르게 と置き換え可能なもの。

⑫美しく 예쁘게 と置き換え可能なもの。

⑬容易く 쉽게 と置き換え可能なもの。

⑭機能面で満足に의 의미で用いられているもの。

⑮親切に 친절하게、あるいは、誠意を尽くして 성의껏 と置き換え可能なもの。

⑯数量を表す語と共に用いられ、たっぷり と 넉넉하게 と置き換え可能なもの。

⑰好んで 즐겨서 と置き換え可能なもの。

⑱幸せに 행복하게 と置き換え可能なもの。

⑲よろしくという挨拶で用いられるもの。

これらの意味機能の候補が、最終的にどのような意味機能として区分されるか。本稿の資料に基づき考察分析していく。

用例分析の過程で問題となったのは、< 잘 > の意味機能が1つの用例につき、1つで解釈できる用例もあれば、多様な意味機能を持つと解釈される用例も多く見られたことである。

- (1) 이것은 천체의 본질을 <잘> 알지 못하던 때의 인간이 천체를 신비스럽게만 생각해서 이들을 지배적인 존재로만 여겼기 때문이다.

[D950737]

これは天体の本質を<よく>知ることができなかった時代の人間が、天体を神秘的に思い、これらを支配的な存在と思い込んでしまったためだ。

用例 (1) <잘> の位置に①正しく 바르게、③明確に 명확하게、⑦十分に 충분히 を用いても、文に違和感がない。このことから、<잘> は「正しく、明確に、十分に」の意味を表すといえよう。管見の限りだが、このような用例について先行研究では論じられていない。

本稿では1つの用例に複数の <잘> の意味機能を認め先行研究とは異なる立場で分析していく¹⁰。

4.2 出現頻度の多い共起語からみた意味機能

<잘> と結合が多くみられた共起語は、알다 (知る、分かる)、모르다 (知らない、分からない)、알려지다 (知られる)、어울리다 (似合う)、드러나다 (現れる)、나타나다 (現れる)、보다 (見る)、쓰다 (書く)、먹다 (食べる) であった。以下、共起語ごとに <잘> の意味機能を考察する。

4.2.1 알다 (知る、分かる) と共起した <잘>

用例出現頻度：102 例

<잘> の意味機能：①正しく 86 例、⑦十分に 89 例、③明確に 102 例

特に③明確のみならず、複数の意味機能「③明確に+①正しく」「③明確に+⑦十分に」の組み合わせを持つため、全ての用例に③明確にという意味機能が含まれている。

- (2) 아버지는 가족들이 왜 저를 이 곳으로 불렀는지 <잘> 알고 계시잖아요?

[D97_B075]

お父さんは家族が何故わたしをここに呼び出したのか <よく> 分かっているんじゃないですか。

- (3) 이러한 문화제국주의는 본질적으로 식민지에 대하여 그 식민지의 국민들이 식민 모국의 풍속과 종교를 <잘> 알게 하고 그 문명을 자신들의 문명보다 우위에 있다고 인식하게 하는 것이다.

[BB94F011]

このような文化帝国主義は、本質的に植民地についてその植民地の国民に植民母国の風習と宗教を <よく> 理解させて、その文明が自分たちの文明より優位にあると意識させるようにすることだ。

- (4) 미국의 아카데미 영화상의 종류를 생각해 보더라도 이는 명백해 지는데 영화의 전문가들은 이런 점을 <잘> 알고 있기 때문에 각본상 이외에도 감독상, 음악상, 편집상, 따위를 따로 두고 상을 주는 것이다.

[BHXX0067]

アメリカのアカデミー映画賞の種類を考えてみてもこれは明らかなのだが、映画の専門家らはこのような点を <よく> 知っているので、脚本賞以外にも監督賞、音楽賞、編集賞などを別に設けて賞を与えているようだ。

(2) は ③ 明確に 명확하게 と置き換えても文に違和感がない。(3) は ③ 明確にだけでなく ① 正しく 바르게 に置き換え可能 (自然な文ではなくなるが意味的には可能) であり、植民母国の風習と宗教を「明確に」「正しく」知っていることを表しているといえる。(4) は③明確だけでなく、⑦十分に 충분히 にしても文に違和感がないため「明確に」「十分に」という意味も含意していると解釈できる。

4.2.2 모르다 (知らない、分からない) と 共起した <잘>

用例出現頻度：35 例

<잘> 意味機能：⑪. 正しく 4 例、⑦十分に 6 例、
③明確に 35 例

4.2.1 と同様に、全ての用例に③明確にという意味
機能が含まれている。

- (5) 다른 사람들이 왜 그렇게 하는지는 <잘>
모르겠네요. [BB94F014]
ほかの人たちがなぜそうするのかは<よく>
わかりませんね。
- (6) 제가 몇 가지 메모를 해왔는데, 이 시대에 이런
이야기가 가장 정확한 것인지는 <잘> 모르
겠습니다. [BHXX0066]
私がいくつかメモしてきたけれど、この時代
にこんな話が最も正確なものなのかは<よ
く>わかりません。

(5) は③明確に 명확하게 と文に違和感がないが、
(6) は③明確にだけでなく⑪正しく 바르게 に置き換
え可能である。

4.2.3 알려지다 (知られる) と共起した <잘>

用例出現頻度：27 例

<잘> 意味機能：⑪. 正しく 3 例、③明確に 3 例、
⑦十分に 27 例

全ての用例に⑦十分にという意味機能が含まれてい
る。

- (7) 아시아 대륙에는 우리 나라를 비롯해서 중국,
일본, 타이, 인도 등등 수없이 많은 나라가
있는데, 서양에는 일본이 가장 <잘> 알려진
아시아의 나라라고 할 수 있지. [AH000463]

アジア大陸には我が国をはじめとして、中国、
日本、タイ、インド等数多くの国があるが、
西洋には日本が最も<よく>知られている
アジアの国だということが言えるだろう。

(7) は⑦十分に 충분히 に置き換え可能である。

4.2.4 어울리다 (似合う) と共起した <잘>

用例出現頻度：19 例

<잘> 意味機能：⑩適切に 19 例

全ての用例が (8) のように⑩適切に 적절하게 に
置き換え可能である。

- (8) “스카프가 아주 <잘> 어울립니다.”
[BEXX0001]
「スカーフがとても<よく>似合ってます」

4.2.5 드러나다 (現れる) と共起した <잘>

用例出現頻度：18 例

<잘> 意味機能：⑨頻繁に 3 例、⑩適切に 6 例、③
明確に 12 例

- (9) 매니저의 역할이 중요하다는 사실은 수입
배분에도 <잘> 드러난다. [BHXX0050]
マネージャーの役割が重要であるという事実
は収入の配分にも<よく>現れている。
- (10) 이러한 사실은 조그마한 군단위 점령지구에
가면 <잘> 드러납니다. [CH000018]
このような事実は小さな郡単位の占領地区に
行くと<よく>現れています。

(9) は③明確に 명확하게 と置き換え可能であり、
(10) は⑨頻繁に 자주 を用いても文に違和感がない。

4.2.6 나타나다(現れる)と共起した <잘>

用例出現頻度：18 例

<잘> 意味機能：③明確に 4 例、⑦十分に 5 例、⑩適切に 18 例

全ての用例に⑩適切にという意味機能が含まれている。

- (11) 심상의 보다 시적인 전개는 비유에 <잘> 나타난다. [AH000051]
心象の、より詩的な展開は、比喩に<よく>現れている。
- (12) 사회과학과人文과학의 구분되는 특성을 그가 보았지, 兩分法을 본 것이 아니라는 것이 다음 글에 <잘> 나타나 있다. [CB000133]
社会科学と人文科学の区分された特性を彼が見たのであり、兩分法を見たのではないことが次の文章に<よく>現れている。

(11) は⑩適切に 적절하게 を用いても違和感がなく、また⑦十分に 충분히 にも置き換え可能である。(12) は ⑩適切に 적절하게 だけでなく ③明確に 명확하게 と置き換え可能である。

4.2.7 보다 (見る) と共起した <잘>

用例出現頻度：14 例

<잘> 意味機能：⑤注意して 2 例、⑮親切に 2 例、④正確に 6 例、⑦十分に 8 例

- (13) 별 매력이 없는 것이나, <잘> 보아주면 다행이다. [BB94F011]
特段の魅力もないが、<よく> (大目に) 見てもらえたらありがたい。
- (14) 사물을 <잘> 보는 자는 마음이 융화 (融和) 하고 정신이 흡족한 경지에 이르는 사람이다. [CB000133]
事物を<よく> (じっくりと / 正確に) 見る

者は、心が融和し精神が満ち足りた境地に達した人だ。

(13) (14) の잘을 <よく> に訳すと座りの悪い日本語になる。(13) は「大目に見る」という慣用的表現についたもので、<잘> の意味分析の基準から⑮親切に 친절하게 に分類した。(14) は⑤注意して 주의해서 や④正確に 정확하게 と置き換え可能である。日本語訳としては⑤ 주의해서 なら「じっくりと」④ 정확하게 なら「正確に」がよいだろう。<よく> の隣に記すことにする。

4.2.8 쓰다 (書く) と共起した <잘>

用例出現頻度：13 例

<잘> 意味機能：②たくみに 13 例

- (15) 즉 문학은 그냥 쓴 글이 아니라 의도적으로 <잘> 쓰려고 한 글이다. [BHXX0062]
すなわち、文学はただ書いた文章ではなく、意図的に<よく> (うまく) 書こうとした文章だ。

(15) は②たくみに 능란하게 と置き換え可能で、うまく文を書くことを表している。쓰다 (書く) 13 例全ての用例が②たくみにの意味機能で <よく> では不自然な日本語訳になるため (うまく) を<よく> の隣に記すことにする。

4.2.9 먹다 (食べる) と共起した <잘>

用例出現頻度：11 回

<잘> 意味機能：⑦十分に 11 例

全ての用例が⑦十分にという意味機能が含まれている。

- (16) 폐결핵은 <잘> 먹고 잘 쉬어야 낫는 병이다. [BEXX0001]

肺結核は<よく> (十分に) 食べてよく休んでこそ治る病気だ。

(16) ⑦十分に 충분히 に置き換え可能である。「しっかりと」「たくさん」など、様々な日本語訳になり得るだろう。これらは⑩たつぷりと 넉넉하게 という量的なものではなく、十分であるさま(様態)を表し⑦十分にという意味機能を持つものと解釈した。

上述した用例分析から考察してみると、알다 (知る、分かる)、모르다 (知らない、分からない)、알려지다 (知られる) と共起した<잘> は、⑪正しく③明確に⑦十分にという共通した意味機能であるのに対し、어울리다 (似合う) は⑩適切に、쓰다 (書く) は②たくみに、보다 (見る) は⑤注意して④正確に⑦十分に⑤親切に、というように比較的多様な意味が見られた。

また、나타나다 (現れる) と 드러나다 (現れる) を比べると「特徴などが現れる」という意味を持つ 나타나다 は⑩適切にという意味機能が最も多く見られているのに対し、「隠れているものが現れる」という意味を持つ 드러나다 は③明確にという意味機能が最も多くみられた。

上述した考察の結果、<잘> の意味機能は共起語により意味機能の偏りが見えるということを確認することができた。

4.3 共起語の分類と意味機能

本章では、4.2 と同様の方法を用い本稿の資料 1,000 用例の考察分析した結果から、計量的に共起語と意味機能の相関性をみる。

4.3.1 共起語の分類

共起語は全て動詞であり、異なり語数は 260 語であった。最も多く結合していた共起語は、알다 (知る、分かる) で、その結合頻度数は 4.2 で述べたように、102 回と圧倒的に他の共起語とは異なっていた。さら

に頻度の多い共起語は 모르다 (知らない、分からない) 35 回、알려지다 (知られる) 27 回、어울리다 (似合う) 19 回であった。これらの動詞は思考的な能動的活動を表す動詞や知覚感覚のような受動的な状態を表す動詞であり、アスペクト形式である -고 있다 が具体的な動作を表し得ず、局面を特定できない動詞¹¹ である。本稿では、これらを状態動詞¹² と呼ぶことにし、-고 있다 を用いて動的な局面を表す動詞を行為動詞¹³ と呼ぶこととする。行為性動詞の中で頻度の高い共起語は、드러나다 (現れる) 18 回、나타나다 (現れる) 18 回、보다 (見る) 14 回、쓰다 (書く) 13 回、먹다 (食べる) 11 回であった。その結果、<잘> の共起語は、状態動詞 126 語、全体の 48%、行為動詞 134 語、全体の 52% であることが明らかになった。具体的な共起語については、状態動詞と行為動詞のカテゴリーごと、自動詞、他動詞に分けて以下に記述する。

状態動詞

[自動詞]

갈리다, 갖추어지다, 걸리다, 견디다, 계산되다, 계획되다, 구별되다, 구현되다, 그려지다, 기억나다, 납득이 가다, 늘어나다, 닦이다, 돌아가다, (길이) 들다, (깎날) 들다, 들리다, 들어가다, 들어맞다, 디자인되다, 떠오르다, 맞다, 맞아떨어지다, 묘사되다, 반영되다, 배합되다, 보이다, 사진이 나오다, 상상이 가다, 생기다, 소개되다, 소화가 되다, 알려지다, 어우러지다, 어울리다, 연결되다, 예증되다, 연소되다, 오염이 되다, 울리다, 이루어지다, 이해가 되다, 잡히다, 접촉되다, 정도되다, 조화되다, 증명하다, 짜이다, 찢어지다, 통하다, 파악되다, 표현되다, 풀리다, 피다, 해독이 되다, 혼련되다,

[他動詞]

가꾸다, 간직하다, 검토하다, 견뎌내다, 구현하다, 극복하다, 기억하다, 기하다, 꾸리다, 끝내다, 나타내다, 넘기다, 느끼다, 대하다, 드러내다, 모르다, 모시다, 묘사하다, 믿다, 반영하다, 받아들이다, 보이다, 보전하다, 분석하다, 빚어내다, 사유하다, 살리다,

생각하다, 소화하다, 수줍음을 타다, 수행하다, 守護하다, 시사한다, (벽(壁)을) 쌓다, 알다, 알리다, 알아듣다, 연결하다, 외우다, 응용하다, 의식하다, 이겨내다, 이루다, 이해하다, 인식하다, 절제하다, 조절하다, 준비하다, 지적하다, 지켜내다, 지켜보다, 지키다, 집행하다, 차리다, 참다, 통어(統御)하다, 파악하다, 포착하다, 표현하다, 피하다, 한눈을 팔다, 해명되다, 해석하다, 해주다

行為動詞

[自動詞]

가다, 짝이다, 깨어지다, 구비되다, 나가다, 나서다, 나오다, 나타나다, 놀다, 다녀오다, 다듬어지다, 닦여지다, 대변하다, 드러나다, 들다, 떠들다, 만들어지다, 발달되다, 복종하다, 붙다, 살다, 説明되다, 속다, 쉬다, 시행되다, 싸우다, 오다, 요약되다, 운영되다, 운용되다, 움직이다, 웃다, 익다, 자라다, 적응되다, 정돈되다, 정리되다, 정비되다, 정제되다, 조화하다, 지내다, 타다 (燃える), 타다 (汚れる), 팔리다, 풀어지다,

[他動詞]

가르치다, 같다, 감추다, 갖추다, 개키다, 경영하다, 공부하다, 관리하다, 教育하다, 구별하다, 구분하다, 구사하다, 그리다, 꽃다, 꾸미다, 꿈 꾸다, 記録하다, 記載하다, 나오다, 낳다, (말을) 다루다, 다스리다, 닦다, 대변하다, (붓을) 돌다, 돌보다, 둘러보다, 드시다, 듣다 따지다, 막아내다, 만들다, 말하다, 맛보다, 맞추다, 먹다, 모방하다, 받다, 받아들이다, 배우다, 보관하다, 보다, 부르다, 사용하다, 살려내다, 쉬다, 선택하다, 설명하다, 숨 쉬다, 시험 치다, 신다, 쓰다, 쓰다 (書く), 쓰다 (使う), (묘를) 쓰다 (きめる), 養育하다, 엮보다, 오르다, 이끌다, 이야기하다, 이용하다, 이해시키다, 읽다, 입다, 저장하다, 전하다, 주다, (제사를) 지내다, 채우다, 처리하다, 체득 (體得)하다, 체험하다, 충족시키다, 치다, 치르다, 커버하다, 키우다, 터득하다, 터뜨리다, 통찰하다, 해내다, 흡수하다

4.3.2 < 잘 > の意味機能

本稿の資料に基づき分析した < 잘 > の意味機能の出現頻度の割合を以下の二つの図に示す。図 1 は状態動詞と共起した < 잘 > の意味機能の出現頻度であり、図 2 は行為動詞と共起した < 잘 > の意味機能の出現頻度である。①~⑯の意味機能候補の出現頻度の割合から、共起語の範疇別に共起語と意味機能の相関性を考察し < 잘 > の意味機能を設定する。

図 1 の状態動詞で出現頻度が 10% 以上であった意味機能は、⑦十分 32.3%、③明確に 29.4%、⑪正しく 13.7% であった。一方、図 2 の行為動詞は⑦十分 19.8%、②たくみに 18.0%、⑥無事に 14.6%、⑩適切に 13.7% であった。

図 1 と 2 を比べてみると、状態動詞と共起した < 잘 > は行為動詞と共起した場合に比べ、意味が固定化されることがわかる。

次に、< 잘 > を含めた文全体で、語用論的な役割を担っているのではないかと考察した用例について述べる。

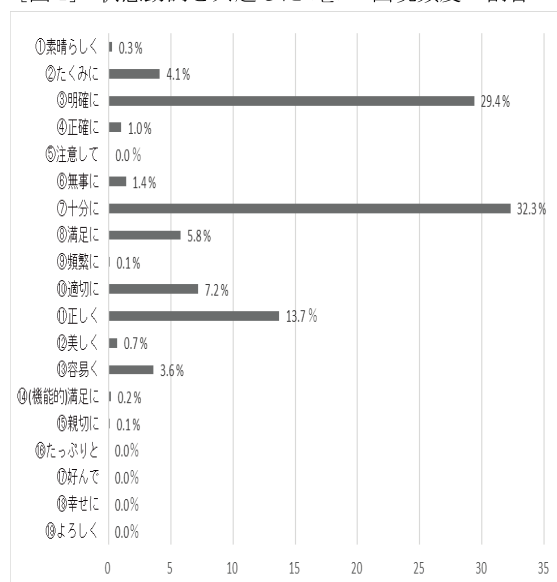
⑥無事という意味機能の用例は、状態動詞 (1.4%) に比べて、行為動詞 (14.6%) と多くの共起がみられたもので、特に「命令、勧誘」といった叙法と多く共起していた。そして、これらの用例は日本語に訳した時、<よく> と対応できないものが多い。以下、(17) (18) に用例を記す。森本 (1992) では日本語学習者の作例を取り上げ、<よく> と対応できない用例の分析と考察がなされている。森本 (1992:74,75) からその用例を以下に引用する。

? さあ、よく 食べてください。

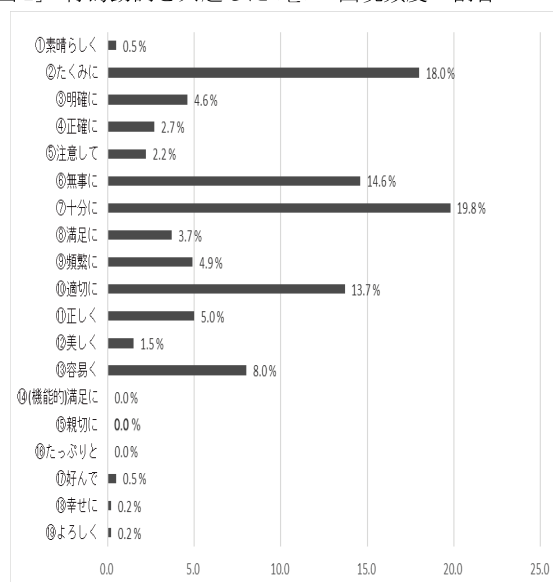
? これからは、よく 働こう。 森本 (1992:74,75)

森本 (1992) は、このような叙法の制約が起こるのは <よく> に「量的読み」が表れた場合だと指摘した。しかし本稿での考察の結果、量的読みとは言えない (17) (18) のような用例が複数みられた。これは、先行研究の内容と異なることを示唆するものとして記

[図1] 状態動詞と共起した<잘>の出現頻度の割合



[図2] 行為動詞と共起した<잘>の出現頻度の割合



述する。

- (17) 그래 너희 둘이 <잘> 살아라. [BEXX0002]

うん、君たちふたりが<よく>暮らしてくれ。

- (18) 아무쪼록 건강하게 <잘> 지내세요.

[BEXX0008]

何卒ご健康に<よく>お過ごしください。

さらに、<잘>の意味機能という観点からみると、(17)は 행복하게 と置き換えが可能なので、⑱幸せに、(18)は⑥無事に分析することもできるが、文全体でみると(17)は「お幸せに」(18)「お元気で」といった、相手への配慮になるといえるかもしれない。以下のような用例はどうだろうか。

- (19) 선생님 강연은 <잘> 들었습니다.

[AH000035]

先生の講演は<よく>聞きました(すばらしかったです)。

- (20) 고맙게 <잘> 신을게. [BEXX0001]

?ありがたく<よく>履くね。(大切に履くね。)

(19)は⑦十分に、⑧満足にと、(20)は⑰好んでと分析できるが、文全体でみると(19)は「素晴らしかったです。」や(20)は「大切にするね。」という、相手への感謝の気持ちや、話者の喜びといった感情的高ぶりを伝えるものであるかもしれないし、ただ社交辞令的な挨拶であるかもしれない。

このような(17)～(20)は、<잘>の意味機能を1対1に分析することが難しい。<잘>を含めた文全体で、談話の中での語用論的役割を担うようになるのではないかと考えるが、このような用例は9例ほどであったため、今後より多くの用例から考察する必要がある。

上述したように考察分析した結果、共起語の範疇を問わず使用頻度の高い順に記すと以下の通りである。

⑦十分に 28.3%、③明確に 21.5%、⑪正しく 10.3%、⑩適切に 9.2%、②たくみに 8.5%、⑥無事に 5.6%、⑬容易く 5.1%、⑧満足に 5.1%、⑨頻繁に 1.6%、④正確に 1.6%、⑫美しく 0.9%、⑤注意して 0.7%、⑰好んで 0.5%、①素晴らしく 0.4%、⑲よろしく 0.2%、⑱幸せに 0.2%、⑭(機能的)満足に 0.2%、⑮親切に 0.1%、⑯たっぷりと 0%

これら 19 個の意味機能の候補から、状態動詞と行為動詞のどちらにも現れなかった意味機能⑩を除いた 18 種類を本稿での <잘> の意味機能とし、1 つの用例であっても複数の意味機能を認め、意味の延べ数は 1,287 個となった。

以下、これらの意味機能を帰納的に考察していく。

4.4 <잘> の意味領域の分布と中心的な概念

本章では、語を用いる際に優先的に扱われる意味を中心的な概念として認める「機能的中心性」を採用し、4.3.2 で設定した意味機能の中から頻度 5% 以上のものを <잘> の意味領域とする。

以下では、共起語のカテゴリー内で意味領域が如何に現れるのか、さらに、いずれの共起語カテゴリーからも共通して多く見られる、最も中心的な意味領域は何かをという観点から、意味領域の分布を構成し分析する。

上記の考え方は、本稿で参考にしている、「機能的中心性」の考え方のみならず、認知意味論における「中心的な概念」にも一致する見解である。以下、松本 (2003:143) の多義語における中心的な概念を引用する。

「多義語の複数の意味のうち、用法上制約がない、あるいは制約が相対的に少ない意味を中心的な概念的意味と認定し、用法上制約のある意味を非中心的な概念的意味と認定するという方法は妥当なものであると考えられる。」

以下 [表 2] は共起語カテゴリー別にみた意味領域である。網掛け部分は頻度が多く表れた意味 (10% 以上) である。

状態動詞は「十分に」「明確に」「正しく」が、行為

動詞は「十分に」「たくみに」「無事に」「適切に」が多くみられた。さらに、いずれの共起語においても頻度が多い、<잘> の中心的な意味領域は「十分に」であることが明らかとなった。

では、この中心的意味領域はどのように現れるのか。用例を考察してみよう。

- (21) TV 화면에서 방영되는 연극 공연과 음악 연주를 보고 우리는 극장과 연주회에서 느꼈던 아우라를 전혀 가질 수 없었던 경험들을 <잘> 알고 있다. [BHXX0065]
テレビで放映される、演劇の公演と音楽の演奏を見て、劇場と演奏会で感じたオーラを全く感じる事ができなかった経験を十分に <よく> 知っている。

(21) は「自分達が以前経験した事柄を」ということを通して、その事実を十分に知ることができることを述べている。このとき話者は、単に 알고 있다 (知っている) というのではなく、事実や経験という自らの内在した基準を通し、知っている状態が、話者のある基準よりも優れていて「十分に」であるという「程度」¹⁴ も含意している。

さらに、同じ共起語であり⑦十分にの意味機能でありながらも、その意味解釈に異なりがみられる用例を考察してみよう。

- (22) 큰 소리로 외치는 허황된 소리보다 성실하고 조용한 사람들의 목소리를 더 <잘> 듣는 사회가 되어야 한다. [BA90A010]
強く言う荒唐無稽な声より誠実で静かな人たちの声をもっと <よく> 聞く社会にならな

[表 2] <잘> の共起語のカテゴリー別にみた意味領域

共起語 \ 意味領域	十分に	明確に	正しく	適切に	たくみに	無事に	満足に	容易く
状態動詞	32.3%	29.4%	13.7%	7.2%	4.1%	1.4%	5.8%	3.6%
行為動詞	19.8%	4.6%	5.0%	13.7%	18.0%	14.6%	3.7%	8.0%
全体	28.3%	21.5%	10.3%	9.2%	8.5%	5.6%	5.1%	5.1%

ければならない。

(22) の <잘> は現在の社会と比較して、より人の話を聞くという「十分に」であり、そこには「程度」の意味を読み取ることができる。同時に、どのように聞くのかという観点から見れば、<잘> は「適切に」「正しく」聞くことを表しており「様態」の意味も確認することができる。

- (23) 귀가 안 들려서 자살을 결심했고 절망과 고뇌 속에서 신음하던 베토벤에 비하여 <잘> 들을 수 있고 추위와 더위를 피할 수 있는 환경에서 우리는 온실 안의 화초처럼 너무 안이하게 사는 것이 아닌가 자책이 있다. [BB94F015] 耳が聞こえなくて自殺を決心し、絶望と苦悩の中でうめいていたベートーベンに比べれば <よく> 聞こえ、寒さと暑さを避けられる環境で、私たちは温室の中の草花のように、あまりにも安易に暮らしているのではないかと自責の念が生じる。

(23) はベートーベンを基準に考えれば、彼よりは「十分に」聞こえている「様態」を表している <잘> である。話者の内在した基準よりも、自分が優れた状態にある「程度」を示唆している。つまり「十分に」という意味機能は、多様な意味に拡張する。あるいは概念の揺れをおこしやすいともいえよう。

上述したように、<잘> の中心的な意味機能である「十分に」は共起語の持つ語彙的特徴の影響も受けやすいことがわかる。

その影響を受けることで、「様態」あるいは「程度」を表す意味機能への揺れが生じている。本稿の用例分析から、このような例を多く確認することができた。

また、ここでいう「様態」と「程度」とは、一方が現れたら一方が消えるという相補的なものではなく、どちらも共存している中で、「様態」が強く現れたり、「程度」が強く現れたりすることも確認できた。

<잘> は一般的に様態副詞といわれている副詞であ

るが、実際の用例から分析した分布をみると「程度」が <잘> の中心的概念といえるのではないだろうか。そして、この「様態と程度の揺れ」が多義を生じさせる要因であり、ここに <잘> の多義性に注目する意義があると考ええる。

5. <잘> の統辞的な特徴 - 修飾範囲を中心に

本章では、<잘> の統辞的な特徴をより明示的に把握するため、日本語の対応語である <よく> と対照しながら分析していく。[表3] のように、意味を問わず朝鮮語は分かち書きを基準とし、その文節数を距離とした。日本語は国立国語研究所が提供する「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」を用いて 1,000 用例を抽出し、朝鮮語の分かち書きにあわせて文節ごとに分けて処理を行った。例えば (24) <잘> の共起語는 풀어지며 であり、<잘> からの距離は 1 の位置にある。次頁の [表4] は、<よく> と <잘> の位置を、共起語との距離から測ったものである。ここから確認できるように、<잘> は共起語の直後と位置が固定されている。一方、<よく> は共起語との文節の距離が固定しておらず、11 文節まで離れているものまである。

- (24) 분홍색 비누가 온수에서 <잘> 풀어지며 부드러운 비누거품을 만들어냈다.

[AA000658]

ピンクの石鹸が温水で <よく> 溶けて柔らかい泡を作り出した。

日本語 <よく> が共起語と 11 文節離れている用例と、その朝鮮語訳は以下の通りである¹⁵。

- (25) <よく>、人気の生地はすぐに売り切れてしまうので、早めに買った方がいいと聞きますが、

[OC10_01012]

? <잘> 인기있는 옷감은 금새 팔려버리기 때문에 빨리 사는 편이 좋다고 합니다.

[表 3] 分ち書きを基準とした用例(25)<잘>の距離

-3	-2	-1	中心語	1	2	3	4
분홍색	비누가	온수에서	잘	풀어지며	부드러운	비누거품을	만들어냈다
ピンクの	石鹸が	温水で	よく	溶けて	柔らかい	石鹸の泡を	作り出した

[表 4] <잘>と<よく>の共起語との距離

共起語との距離		-1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	計
よく	頻度		749	94	66	26	27	10	10	6	7	4	1	1,000
	%		74.9%	9.4%	6.6%	2.6%	2.7%	1.0%	1.0%	0.6%	0.7%	0.4%	0.1%	100.00%
잘	頻度		999	1										1,000
	%		99.9%	0.1%										100.00%

- (26) 最近は、町で<よく>「〇〇神経科クリニック」とか、「××メンタルクリニック」といったような看板を見かける。[LBp4_00016]
최근에는 거리에서 <잘> ‘〇〇클리닉’ 이라든지 ‘××정신 클리닉’ 이라는 간판을 접한다.

上記<よく>の用例に対応した朝鮮語を、<잘>に置き換えることは不自然であり、흔히 や 자주 と置き換えるのが良いであろう。<よく>の用例の中で、共起語との距離が7文節から11文節の位置にある用例は「頻繁に」の意味で<자주 jaju>との置き換えが自然であった。

- (26)' 最近は、町で<よく>「〇〇神経科クリニック」とか、「××メンタルクリニック」といったような看板を見かける。[LBp4_00016]
최근에는 거리에서 <자주> ‘〇〇클리닉’ 이라든지 ‘××정신 클리닉’ 이라는 간판을 접한다.

さらに副詞の位置を変えて考察してみると<よく>と<자주>は位置を替えても、意味を変えることなく文が成立することがわかる。

- (27) 最近は、町で「〇〇神経科クリニック」とか「××メンタルクリニック」といったような看板

を<よく>見かける。

최근에는 거리에서 ‘〇〇클리닉’ 이라든지 ‘××정신 클리닉’ 이라는 간판을 <자주> 접한다.

これは何故か。副詞の修飾範囲に注目し、以下で<よく>と<잘>の用例と共に考察する。

修飾範囲については、文の文法的形式と文階層¹⁶の関係を指摘した 박소영 (2000)を参考にする。これは、副詞と接続文との共起関係を分析し、階層構造によって副詞の含まれる可能性を示唆しているものである。さらに 박소영 (2004)で、副詞の位置を変えると文の意味が変わるものは、文階層の中で最も狭い、述語層を修飾範囲にしている副詞であると指摘している。

以下、<よく> (28) (28)' と<잘> (29) (29)' をみてみよう。

- (28) 加藤氏はこれがお気に入りで、「ヨーロッパのクライマーはビバーク中<よく>これを飲むんだ。一種の興奮剤のようなものだよ」

[PB22_00201]

- (28)' 加藤氏はこれがお気に入りで、「<よく>ヨーロッパのクライマーはビバーク中これを飲むんだ。一種の興奮剤のようなものだよ」

- (29) 말 <잘> 하기는 쉽다.

[AH000051]

- (29)' <잘> 말하기는 쉽다.

(28)(28)'の<よく>は副詞の位置を入れ替えても、互いに意味を変えることなく文が成立していることがわかる。文階層の観点からみると、<よく>は述語層の外に出て、命題内の句や節を修飾することができる副詞であることが確認できた。

一方、<잘>は位置を入れ替えることによって、その文の意味が変わることになる。(29)は「相手にとって理解しやすい」あるいは「聞こえがいい言葉を使う」という意味であるが、<잘>の位置を変えた(29)'は、「上手に話すことはたやすい」あるいは「弁が立つ」という意味になる。

このように <잘>は位置の変化によっても多義性を見せる副詞であり、文階層の側面から考察しても、<잘>の修飾範囲は述語層だけであるため、<よく>とは修飾範囲が異なる副詞であることが明らかとなった。

副詞の位置という統辞的な違いによって、多義性が認められるということも <잘>の特徴の一つである。

6. おわりに

本稿は、文中での副詞の修飾機能の振る舞いを、意味の側面だけでなく統辞的側面からも考察を行った。その結果、<잘>の多義性について以下のように分析した。

- ① <잘>が修飾する共起語が、同じ語なら<잘>の意味機能も完全に同じになるというわけではなく、同じ共起語であっても、文の中で<잘>は多様な意味を持つが、ある一定の意味機能の偏りを把握することができた。
- ② <잘>の意味領域の分布を作成し、計量的に分析した結果、共起語のカテゴリーを選ばず、頻度が多い中心的な意味領域は「十分に」であった。一般的に様態副詞といわれる <잘>であ

るが、「十分に」の用例を分析した結果、「様態」のみならず「程度」も見ることができた。ここでいう「様態」と「程度」とは、どちらも共存する中で、「様態」が強く現れたり、「程度」が強く現れたりするもので、この「様態と程度の揺れ」は多義が生じる要因であり、ここに<잘>の多義を注目する意義があると考えられる。

- ③ <잘>の統辞的な特徴を捉えるため、日本語の対応語である<よく>と対照した。副詞の位置および共起語の距離から、<잘>は共起語の直前に位置が固定されている反面、<よく>は共起語との距離の範囲が広く、修飾範囲の相違を確認した。さらに、文階層の観点から<よく>や<잘>の類義語である<자주>についてもみると、<자주>と<よく>は述語層の外に出て、命題内の句や節を修飾することができるが、<잘>はそれができず、共起関係を結ぶ修飾範囲が、文階層のなかで最も狭い述語層であり、そのような統辞的な違いによって、多義性が認められることも <잘>の特徴の一つであるということが、明らかになった。

本稿では今後の語彙研究において、多義語をどのように扱えばよいのかという観点からの試みを行ったものであり、その研究の方向性に寄与することができると考える。分析過程において <잘>の意味機能を分析することが難しい用例も存在し、それらは<잘>を含めた文全体として、談話の中での語用論的役割を担うものではないかと考えた。しかし、このような用例は現段階では少ない。今後より多くの用例から考察の必要であるため今後の課題とする。

今後はさらに <잘>以外の語に広げて分析を行い、現代朝鮮語の副詞の体系を記述していきたいと考えている。

参考文献

1) 朝鮮語でかかれた文献 (著者トロ順)

- 김태인 (2014) '한국어부사 '잘' 의 의미' "국語研究" 243 号
 박소영 (2000) '한국어 부사의 문장 계층 유형론' "어학연구" 제 36 권제 3 호
 박소영 (2001) '정도부사 '아주', '거의', '매우' 의 의미와 분포' "담화와 인지" 제 8 권제 1 호
 박소영 (2004) "한국어 동사구 수식 부사와 사건구조" 서울: 태학사
 서상규 (1984) '부사의 통사적 기능과 부정의 해석' "한글" 제 186 호
 서정수 (2005) "한국어의 부사" 서울: 서울대학교출판부
 정은정・永谷直子 (2008) 「잘」과 「よく」의 대응관계고찰 "日語日文学研究" 第 67 輯 1 卷

2) 日本語でかかれた文献 (著者あいうえお順)

- 生越直樹他 (2002) 「テンス・アスペクトの比較対照」『シリーズ言語科学 4』東京: 東京大学出版会
 李在鎬・井佐原均 (2006) 「統計的手法に基づく韓国語副詞「JAL」の一考察」日本語言語学会 133 回大会
 李在鎬 (2011) 『コーパス分析に基づく認知言語学的構文研究』東京: ひつじ書房
 林炫情 他 (2011) 「韓国語学習者作文コーパス (KC-CORPUS) と韓国語教育への活用」『山口県立大学 学術情報 第 4 号』大学院論集 通巻 12 号
 大堀壽夫 (2002) 『認知言語学』東京: 東京大学出版会
 工藤 浩 (1983) 「程度副詞をめぐって」渡辺実(編)(1983)所収
 JOHN R. TAYLOR (1989) LINGUISTIC CATEGORIZATION: PROTOTYPES IN LINGUISTIC THEORY. OXFORD: CLAREDON PRESS. (辻幸夫訳
 (1996)『認知言語学のための 14 章』東京: 紀伊國屋書店)
 徐尚揆 (1991) 「現代朝鮮語の程度副詞について」『朝鮮学報』第 140 輯 天理: 朝鮮学会
 仁田義雄 (2002) 『副詞的表現の諸相』東京: くろしお出版
 浜之上幸 (1991) 「現代朝鮮語動詞のアスペクト的クラス」『朝鮮学報』第 138 輯 天理: 朝鮮学会
 松本 曜 (2003) 『認知意味論』シリーズ認知言語学入門 <第 3 巻> 東京: 大修館書店
 森本順子 (1992) 副詞的機能とモダリティー「よく」について『京都教育大學紀要・A 人文・社会』80
 渡辺 実 (編) (1983) 『副用語の研究』東京: 明治書院

3) 英語でかかれた文献

- GRIES, STEFAN TH. (2006) "CORPUS-BASED METHODS AND COGNITIVE SEMANTICS: THE MANY MEANINGS OF TO RUN." IN CORPORA IN COGNITIVE LINGUISTICS: CORPUS-BASED APPROACHES TO SYNTAX AND LEXIS. ED. BY STEFAN TH. GRIES AND ANATOL STEFANOWITSCH. BERLIN: MOUTON DE GRUYTER, 57-99

4) 辞典類

- 亀井孝, 河野六郎, 千野栄一 (1996) 『言語学大辞典 第 6 巻』東京: 三省堂
 국립국어원편 (1999) 『표준국어대사전』서울: 두산동아
 국립국어원 (2005) 『현대 국어 사용 빈도 조사 2』<http://www.korean.go.kr>
 油谷幸利他編 (2018) 『韓日辞典』東京: 小学館
 연세대학교언어정보개발연구원 (2014) 『연세현대한국어사전』<https://ilis.yonsei.ac.kr/>

注

- 1 300万語節の語彙分析コーパスの中で3,196回出現し品詞を問わず出現順位90位。詳しくは『현대국어사 용빈도조사2』국립국어원 (2005)を参照されたい。
- 2 林炫情他 (2011) は日本の大学で朝鮮語を学習する日本語母語話者を対象に作文データを収集した朝鮮語教育システム KC-Corpus を構築し、その中で誤用の中で最も多い語が <잘> であると指摘した。特に、頻度を表す「よく」の場合 <자주 jaju> を用いるべき文に <잘> を対応させた誤用が最も多い。
<http://www12.atwiki.jp/kccorpus/>
- 3 諸々の個別的意味は原義から派生したものであるため、通時の研究から語の中心的な概念を明らかにすることができるという研究もあるが、初山 (1994) 等では共時的にみると異なる点があることを指摘している。また、認知意味論においての中心的な概念の導き方は「概念的中心性」に基づいたものであるが、概念的中心性の問題点は、何を中心的概念、中心的意味とすれば整合性のある分析ができるかという観点から、研究者によって「概念的中心性」が異なる傾向にあるため、心的なものに依存していると指摘がある。松本 (2003:145)
- 4 多義語 run をあげてコーパスを用いた計量的分析とクラスタ分析を通して、プロトタイプを認定できるとしている。48種類の意味を持つ run がテキスト中でいかにふるまうかという観点から、機能の類似性、共通性を導きだし4つにカテゴリー化をおこない、カテゴリーにまたがる run の中心的概念を fast pedestrian motion (歩行者の速い動き) と to manage (管理する) と導き出した。これをコーパス言語学アプローチと認知言語学アプローチの橋渡しの役割として有効な手段であると主張している。詳しくは Gries (2006) を参照されたい。
- 5 4つの意味の根拠は以下の通りである。分類①様態の構文は、主語 [生物] - 目的語 - 잘 - 他動詞 [行為動詞] で、「上手に、うまく、立派に、ちゃんと、正しく、詳しく、詳細」等の意味解釈が可能で ㅏ に置き換えられるもの。分類②程度の構文は、主語 [抽象物] - 잘 - 自動詞 [状態動詞] - [否定] で、「十分に、満足以、注意して、気をつけて、立派だ、きれいだ」等の意味解釈ができ, 거의 に置き換えられるもの。分類③頻度の構文1は主語 [生物] - 目的語 - 잘 - 他動詞 [状態動詞・知覚動詞] で、「しばしば、十分に、満足以、上手に、うまく、立派に」等の意味解釈ができ, 분명히 に置き換えられるもの。分類④態度の構文は、主語 [生物] - 잘 - 自動詞 [行為動詞] - (否定辞) で、「心をこめて、親切丁寧に、好んで積極的に」の意味解釈ができ, 확실히 に置き換えられるもの。
- 6 박소영 (2004) では事象構造と副詞の関連性を Pustejovsky (1991) に従って定義づけている。Pustejovsky (1991) は、John almost built a house. を例に挙げ「副詞 almost は、家1軒をほとんど建てたと、家を建てるところだったの二つの解釈しうるものとし、前者は「状態」の下位事象を修飾し後者は「過程」の下位事象を修飾する。」としている。
- 7 一般動態副詞類語は、優劣、難易、緩急、動作の態度等を表し、動作を直接限定する特性をみせるものをいう。ただし, 그 사람은 요즘 집에 잘 있다. のように <잘> を含む一部の副詞は動詞以外に存在詞とも共起をみせることを指摘している。
- 8 例えば、個体の恒久的属性を現わす個体層位述語 (키가 크다, 얼굴이 하얗다 等) とも文脈が与えられれば結合することができる。また -기를 잘했다 の形態で文章が再現もするものが多く現れた。-기 は評価の対象になる事実範疇であり -를 잘했다 部分が話者の評価部分になる。
- 9 『표준국어대사전 (標準国語大辞典)』は名前の通り韓国政府の政策として作成された辞書である。1999年の紙媒体の辞書と、2019年3月に改訂された標準国語大辞典ウェブ版の <잘> の記述においては、変更された点がないことが確認された。『연세현대한국어사전 (延世現代韓国語辞典)』はコーパスから収集した実際に使用されている用例を用いており、最も新しい辞書という点から参照するに値すると考えた。『韓日辞典』は日本語母語とする学習者の辞書として出版されたもので、<잘> が学習者の誤用を招きやすい語として意味記述を捉える必要があると考える。これらを便宜上、「標準」「延世」「韓日」と記述することにする。
- 10 意味分析において、解釈に迷いが生じた用例については、朝鮮語母語話者 (ソウル出身 50代女性、40代男性) に判断を仰いだ。意味解釈の基準や方法論についての本格的な議論は本稿の目的が異なるため、今後の課題として検討していくつもりである。
- 11 浜之上 (1991) の状態性動作動詞の記述を引用。本稿では、朝鮮語の動詞範疇の対応関係を考察することが目的ではない。共起語を分類する上で、動詞の語彙的な意味と相関して動詞のアスペクトの意味に基づ

いた浜之上(1991)に従う。

- 12 本稿で用いる状態動詞とは、浜之上(1991)でいう -고 있다 を用いて動的な局面を持たない状態性動作動詞(알다, 늦다等)と、-고 있다 を持たない状態動詞(本稿の共起語は 맞다, 생기다 のみ)をいう。
- 13 本稿で用いる行為動詞とは、浜之上(1991)でいう -고 있다 を用いて主体が変化しつつある動的な局面を表す動詞(잡다, 오다等)や、主体は変化せず動的な局面を表す動詞(먹다, 걷다等)をいう。
- 14 本稿でいう程度の定義は「程度とは被修飾語に本来的に備えられているものではなく、話し手が発話段階(文のレベル)において話し手自らの認識の中に用意されている、何らかの基準と照らし合わせ、関係性によって大小、多少、優劣などが決められるものである。」という徐尚撰(1991)に従うものである。
- 15 筆者が朝鮮語に訳し朝鮮語母語話者(30代男性)が校閲したものである。
- 16 ここでの文階層とは文を「述語、命題(proposition)、事象の志向的様相(event-oriented modality)、聴者の志向的様相(hearer-oriented modality)」の4つの層を持つとしたものである。